

笹川保健財団 地域啓発活動助成
助成番号：2021-009

2022 年 3 月 4 日

公益財団法人 笹川保健財団
会長 喜 多 悦 子 殿

2021 年度地域啓発活動助成 活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

重度障害児へのテクノロジー活用の普及啓発

活動者（助成申請者）名： 一般社団法人できわかクリエイターズ 引地 晶久

1. 活動の内容・実施経過

(1) 活動の目的

重度障害児の中でも、特に重度の身体障害だけでなく、重度の知的障害を併せ持つ重症心身障害児の支援者の多くが、「なににもできない」「なににもわかってない」と過小評価することが多い。さらに、「なにができることがあるのでは」と感じていても、できる手段がなく諦めてしまい、子どもの成長する機会や経験が不十分なことが多い。だが、近年の技術の進歩により視線を使って機器を操作する視線入力装置、身体の僅かな動きを受け取る入力機器など、重度障害があっても個々の力で『できる』ICT 機器が開発されたことにより、その環境は大きく変わりつつある。しかし、「そのような機器があることを知らない」「機械は苦手」という支援者や、「重度障害児には使えない」といった考えを持つ支援者はまだまだ多い。

ICT 機器を活用することで、重度障害児が『できる』経験や成功体験を得ることにより大きく成長する。さらに、支援者自身が重度障害児のことを『わかる』ことで関わり方が変わる。重度障害児も全ての児と同様に遊び、学ぶことで社会参加のスタートラインに着くことができる。その実現のために、重度障害児に関わる支援者に対して ICT 機器活用の学びの場、サポートの場が必要であると考え。

(2) 活動の内容

重度障害児への ICT 機器活用の学びの場として研修会を実施する。手段としてはオンラインで行い、どの地域にいても参加することができる。参加者としては、当事者、当事者家族、医療従事者、介護職、教育関係者、そして ICT 機器の専門家など重度障害児に関わるすべての人が対象とする。内容は、重度障害児への ICT 機器活用の概要、症例紹介、最新テクノロジーの紹介などの講習会を実施する。また、重度障害児がオンラインでも楽しめる体験型のイベントを開催する。

研修会名は「重度障害児のための児のための最新デジタルツール講習会 & 体験会」とし、主催は一般社団法人できわかクリエイターズ、共催として一般社団法人こどもエンターテインメントの協力のもと実施する。この研修会は 2019 年よりオフライン、オンラインで継続的に開催しており、今回で計 4 回目の実施となっている。

効果判定として、終了時には参加者にアンケートを実施し、研修会の満足度や参加しての感想を集計する。その結果をもとに、より良い重度障害児への ICT 機器のサポートに繋げていく。

(3) 実施経過

① 研修会実施に向けたミーティング

本事業の運営における主要メンバーでのミーティングを定期的実施する。Zoom を使用して、基本的に月 1 回実施する。参加者は、主催の一般社団法人できわかクリエイターズ、共催の一般社団法人こどもエンターテインメントの主要メンバーで実施する。Zoom 以外の連絡等はメッセージグループで適宜連絡を行う。

研修会のテーマ・内容・講師の選定・実施方法・スケジュール等、研修会の詳細を決定する。

(ミーティングの詳細は別紙 1 を参照)

② 研修会詳細決定

本事業の中心となる研修会は下記の内容とする。

・研修会名：第 4 回「重度障害児のための児のための最新デジタルツール講習会 & 体験会」

- ・日時：2021 年 11 月 6 日（土）10：00～16：00
- ・方法：Zoom を使用したオンライン開催
- ・テーマ：重度障害児の可能性をひろげるタブレットを中心とした ICT 機器活用 & 重度障害児の e スポーツ

・講師：

- ㊦高松崇氏（NPO 法人支援機器普及促進協会理事長）
- ㊧岩崎允宣氏（島根大学総合理工学研究科伊藤史人研究室所属）
- ㊨福島勇氏（国立高専機構熊本高等専門学校特命客員教授、できわかクリエイターズ理事）
- ㊩引地晶久氏（一般社団法人できわかクリエイターズ代表理事）

・講演、イベント内容：

㊦高松崇氏講演

講演タイトル；「iPadOS 15 を中心とした、重度障害児への可能性について」

講演テーマ；重度障害児への iPad 活用法について。

㊧福島勇氏講演

講演タイトル；「重度障害児の可能性を引き出す ICT の活用について」

講演テーマ；タブレットや視線入力などの重度障害児への機器活用について。

㊨引地晶久氏講演

講演タイトル；「重度障害児の e スポーツ」

講演テーマ；重度障害児の e スポーツの現状や可能性について。

㊩重度障害児も楽しめるオンラインゲームイベント

解説・サポート；岩崎允宣氏（島根大学総合理工学研究科伊藤史人研究室所属）

イベント内容：島根大学総合理工学研究科の伊藤史人研究室で開発されている「EyeMoT 対戦エアホッケー」を使用し、オンライン対戦イベントを実施する。「EyeMoT 対戦エアホッケー」は視線入力やスイッチ入力など個々ができる力で楽しむことができるインクルーシブゲームである。

③研修会講師・スタッフミーティング

研修会講師とのミーティングを、Zoom を使用して実施する。研修会全体のテーマの確認、講演内容の確認、イベントの確認を行う。Zoom 以外の連絡等はメッセージグループで適宜連絡を行う。

（ミーティングの詳細は別紙 2 を参照）

また、研修会スタッフとして 4 名に依頼し、Zoom を使用し研修会前のオンラインミーティングを実施する。今回は感染対策として、講師やスタッフも集まらず、各自の自宅から対応することとした。そのため、Zoom の使用方法の練習、参加者への案内方法の確認、トラブル対応など、オンライン研修会を想定した練習会もあわせて実施する。Zoom 以外の連絡等はメッセージグループで適宜連絡を行う。

（ミーティングの詳細は別紙 3 を参照）

④広報活動

研修会の広報には Facebook、Twitter、Instagram 等の SNS を活用した。さらに、一般社団法人できわかクリエイターズに関わる関西周辺の学校、病院施設、市役所、保健所等に案内を実施した。

案内のためのチラシとして、一般社団法人こどもエンターテインメントに Web 用チラシ 2 種（図 1）を作成依頼した。



（図 1）オンライン研修会用 Web 用チラシ

④ 研修会開催

- ・参加人数：81 名（スタッフ除く）

（研修会の様子は図 2 参照）

- ・参加者所属内訳

当事者；6 名（5.3%）

当事者家族；34 名（40.8%）

医療従事者；12 名（15.8%）

教育関係者；20 名（26.3%）

介護関係者；4 名（5.3%）

その他；5 名（6.5%）

※その他（放課後デイサービス職員、学生、市議会議員）

- ・研修会内容

① 福島勇氏講演

講演タイトル；「重度障害児の可能性を引き出す ICT の活用について」

講演内容；タブレットやパソコンなどの ICT 機器を重度障害児へ活用することの意味や考え方を学ぶ。子どもにとって“お得なこと”を見つける、という考え方を中心に、活用の際のポイントを、事例を交えて分かりやすくまとめた。 （図 3）

② 高松崇氏講演

講演タイトル ; 「iPadOS 15 を中心とした、重度障害児への可能性について」

講演内容 ; 新しく iPadOS 15 となり、障害児を助ける活用の幅が大きく増えた。言葉のみでコントロールする手段や、写真を撮ることで文章を読み上げる機能など、実例を交えながら分かりやすく教えていただいた。(図 4) また、高松氏には今回の研修会のコメンテーターとして、各講演での補足説明等の手助けをいただいている。

㊦引地晶久氏講演

講演タイトル ; 「重度障害児の e スポーツ」

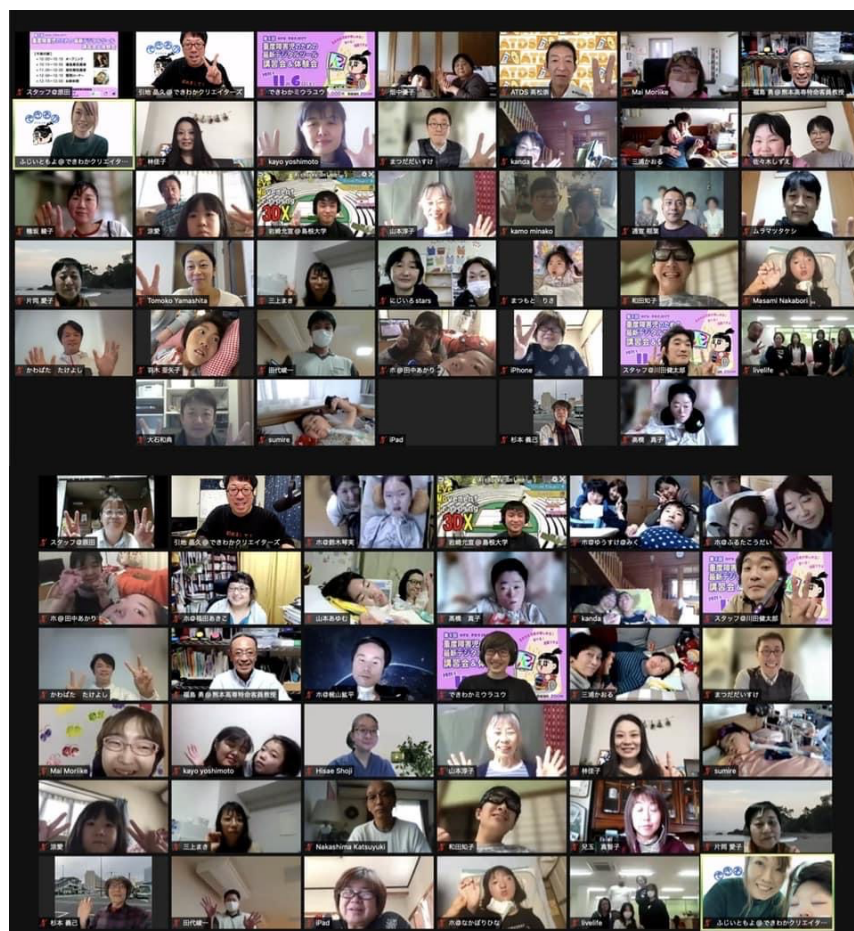
講演内容 ; 島根大学で開発されている EyeMoT や、視線入力や様々な入力機器による家庭用ゲーム機の活用により、重度障害児が楽しむことができる e スポーツがある。それらを紹介し、重度障害児の可能性を多くの方に感じていただく。(図 5)

㊧重度障害児も楽しめるオンラインゲームイベント

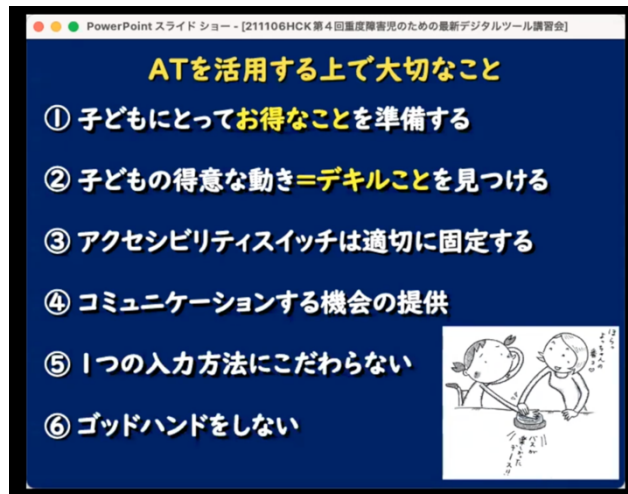
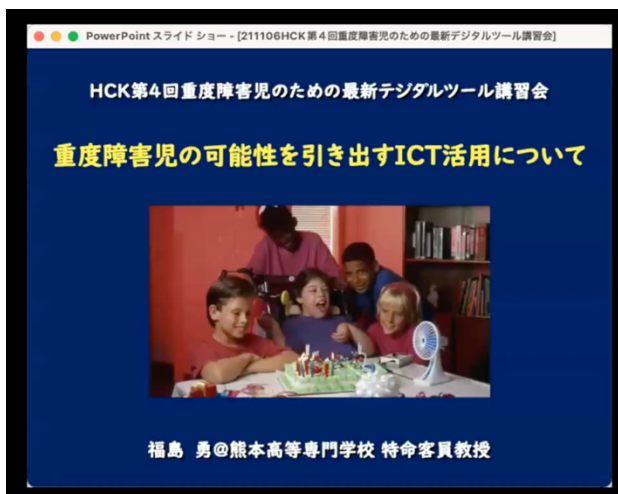
解説・サポート ; 岩崎允宣氏 (島根大学総合理工学研究科伊藤史人研究室所属)

司会 ; 引地晶久 (一般社団法人できわかクリエイターズ)

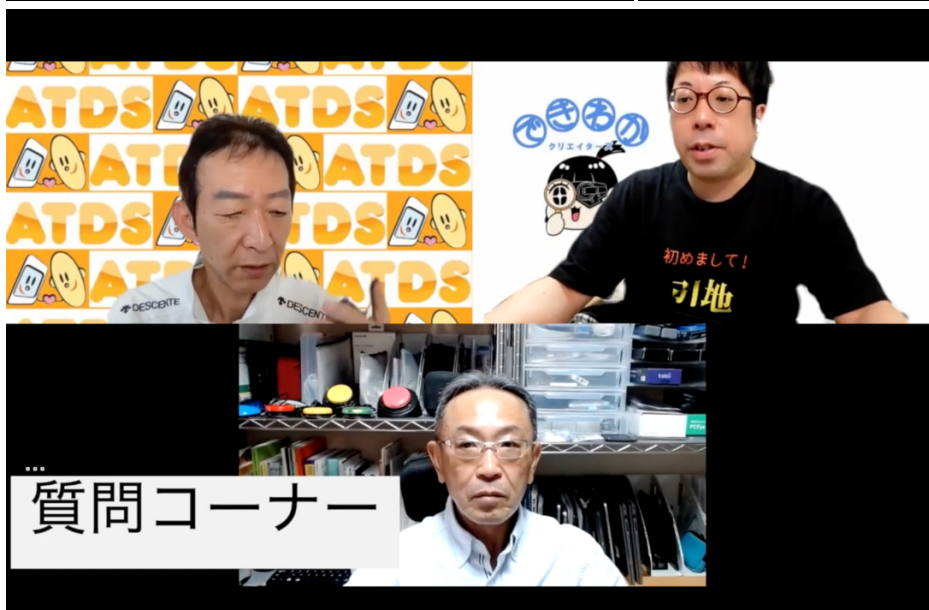
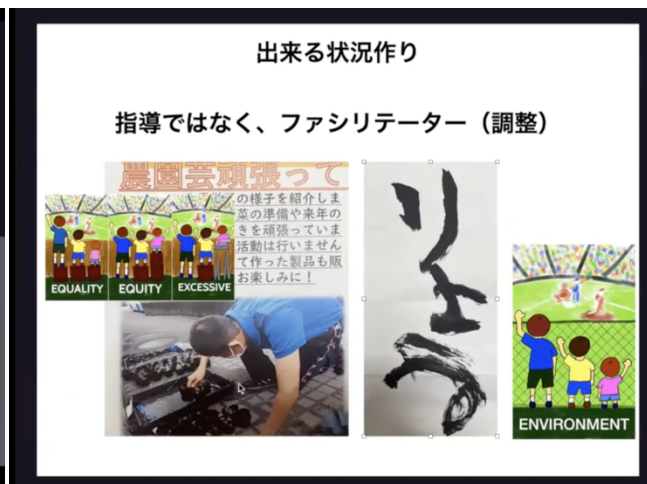
イベント内容 : 島根大学総合理工学研究科の伊藤史人研究室で開発されている「EyeMoT 対戦エアホッケー」を使用したゲームイベントを開催した。開発者である岩崎氏にゲームの説明や説明をしていただいた。(図 6) 実際に当事者である 10 名の方に参加していただき、対戦の様子を参加者の方に見ていただいた。(図 7)



(図 2) オンライン研修会の参加者の様子



(図3) 福島勇氏講演の様子



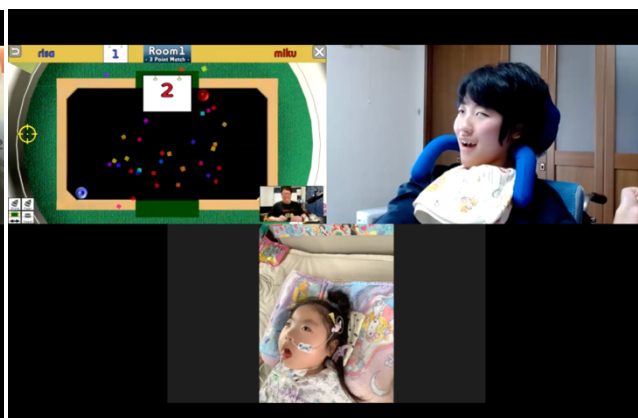
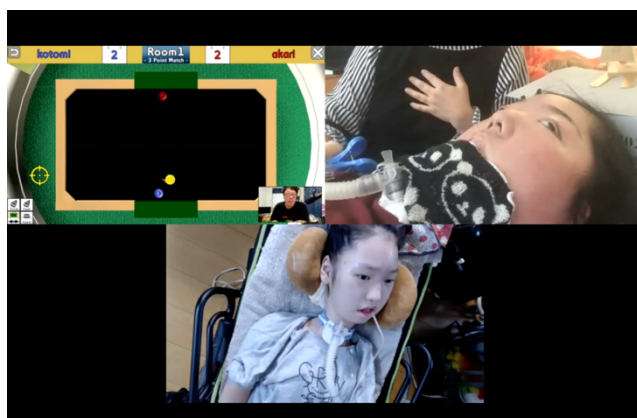
(図4) 高松崇氏講演の様子



(図5) 引地晶久氏講演の様子



(図6) 岩崎允宣氏講演の様子



(図7) EyeMoT 対戦エアホッケーイベントの様子

⑤研修会后

研修会后、参加者へ効果判定のためのアンケートを実施した。

一般社団法人できわかクリエイターズが集計した。

⑦アンケート回答数：35 名

①満足度：大満足；21 名（64%）

満足；14 名（36%）

普通；0 名（0%）

やや不満；0 名（0%）

不満；0 名（0%）

②参加者の感想（一部抜粋）

・午後の部のホッケー大会も初めてで、視線入力で出来ることってすごいなって、娘と一緒に応援していました。私も娘と一緒に「出来ること探し」を頑張っていきたいと思える、有意義な 1 日でした。

（当事者家族）

・バラエティーにとんだ内容で飽きずに参加できました。体験会があり、初めて参加しても楽しめて、やれる！と思える内容だったと思います。（当事者家族）

・新しいことをたくさん知れて、ありがとうございます。勤務先でアウトプットしたいと思います。（教育関係者）

・色々気付けることのできた、講演会でした。もっと、いろいろなお母さんにも聞いてもらいたい内容でした。紹介していきます。（当事者家族）

・凄く楽しかったです。職場の放課後デイに来ている、脳性麻痺児、呼吸器のお子さん、重度重複のお子さん、みなさん iPad は持っているのに、YouTube をクルクル回しているだけ。私の地元では、なかなか ICT 化が進みません。（介護関係者）

・娘のできることややりたいことを助ける方法はいろいろあるのだなと分かったと同時に周りにいる大人特に親のデジタルスキルの差が大きいなと感じました。今日の回はたくさんの情報があって嬉しかったのですが、盛りだくさんで理解が追いつかないところがありました。これから少しずつ娘と模索していきたいと思います。（当事者家族）

・楽しかった！早くリアルイベントをやってほしい！（当事者家族）

・アットホームな雰囲気でもとても素敵な研修会でした。AT 活用する際に気をつけなければいけないことや、手段や方法はいくつも準備し、デキル方法を選んであげられるようにするなど、親も学んでいかなければと思いました。午後のホッケーもめちゃくちゃ楽しかったです！（当事者家族）

・ゲームされている様子には感動しました！今後色々勉強して我が家の娘にも活用していければと思います。（当事者家族）

・日々の支援、療育の中で、できる力を活かせる方法の模索をしています。まだまだ知らない方法があるなど、毎度参加するたびに勉強させていただいています。今回印象的だったのが、ハイテクノロジーの活用ばかりでなく、立ち止まって、ローテクノロジーに戻った時に上手くいったという例にハッとさせられました。その子の出来ること、持っている力を活かすための手段は幅広く、どちらが優れているとかでなく、常に最適を見つける視点を忘れてはいけなと。ついつい頭が硬くなりがちなので、少しほぐれた気がします。（医療関係者）

・長年 iPhone を使っているのですが、まだまだ知らない機能があり、とても勉強になりました。

・子どもが受動的である事がこころの発達、その先のコミュニケーションに繋がっていて、自分から表現する方法や、こちらがわかってあげられる方法、今後子どもが成長するにあたり、いろんな手段を親として知っていたい…と、今回参加させていただきました。（当事者家族）

2. 活動の成果

今回、重度障害児へのテクノロジー活用の普及啓発を目標にオンライン研修会を実施した。研修会に参加された方からは、満足度の高い反応が聞かれ、重度障害児に対してどのような支援ができるのか、そして支援をすることによる可能性を感じてもらうことができた。さらに、重度障害児が楽しめるオンラインゲームイベントを実施したことにより、講演で話を聞くことにあわせて、実際に重度障害児やその家族が楽しんでいる様子を見てもらえたことで、テクノロジー活用への苦手意識の軽減としての効果もあったと感じている。さらに、全国の色々な家族や支援者が参加したことで、今まで関わることのなかった家族や支援者の繋がりも生むことができ、研修会後も SNS 等で情報交換をする様子なども見られている。

また、研修会に参加された当事者やご家族、医療関係者、教育関係者等の支援者より、実際にテクノロジー支援をしていくにはどうすれば良いのか、一般社団法人できわかクリエイターズに個別相談や研修会の依頼を多くいただいた。また、研修会に参加された方だけではなく、研修会の話を参加者の方から聞いて依頼をしてくださる例も多かった。それは、研修会がひとつの勉強の場、普及啓発の場だけに留まらず、重度障害児の支援にしっかりと繋がってきていることを実感することができた。

今回の事業を通じて、重度障害児のテクノロジー支援を多くの方が望んでおり、多くの方が悩んでいることを改めて実感することができた。少しでも多くの当事者や支援者に届くように、引き続き研修会やイベントを通じて、重度障害児へのテクノロジー活用を伝えていきたい。

3. 今後の課題

コロナ禍となり、現在ほとんどの研修会がオンライン開催である。オンライン開催になったことにより、今まで研修会会場には参加できなかった当事者や家族が多く参加できるようになった。今回の研修会も約半数が当事者と当事者家族であり、医療処置をしながら参加できること、体調を気にせず参加できること、全国どこにいても参加できることはとても喜ばれている状況である。しかし、オンラインであるがゆえに、「実際に自分の子にはできるのか?」「試してみないと分からない」といった声も多く聞かれる。コロナ禍前は、私達は講習会と体験会をあわせた研修会を企画していた。それは、話を聞くだけではなく、実際に体験してみること、目の前の重度障害児がやっているのを見ることが、何よりも大きな情報や支援の一步を進める機会となる。そこがオンライン研修会により、大きな機会の損失となってしまう。今後は、オンライン研修会でも、より分かりやすく、支援をイメージしやすい伝え方を徹底していくことが必要となる。また、オンライン支援でデモ機を貸し出し、実際に体験しながらオンラインサポートできる支援体制を整えていくこと、可能な範囲での個別や少数グループでの体験会も実施していきたい。

さらに、今回の研修会の参加比率を見てわかるように、当事者家族の参加が半数を占めている。それだけ、全国で重度障害児への支援に家族が困っており、情報を求められている現状が見える。まだまだ、テクノロジー活用のサポートが可能な支援者は全国的に少ない現状もあり、当事者家族が孤立して支援している状況もある。今後は、テクノロジー活用の可能な支援者育成や、重度障害児へのテクノロジー活用のサポートの拡大をしていかなければと痛感している。すべての重度障害児が、自身の力をしっかりと発揮し活躍できることが当たり前の社会を目指したい。

4. 活動の成果等の公表予定

今回の助成金事業は、一般社団法人できわかクリエイターズのホームページに報告としてまとめさせ

ていただく。また、私達は 3 年前より、この重度障害児へのテクノロジー活用の普及啓発活動を実施してきた。今回の活動も含めて、日本作業療法学会や重症心身障害療育学会での学会発表を検討している。

また、この事業がここで止まらないよう、来年度も第 5 回目の「重度障害児のための児のための最新デジタルツール講習会 & 体験会」を企画していく。その際には研修会内で第 4 回の報告もあわせて実施する。

(別紙 1)

○研修会実施に向けたミーティング

参加者：一般社団法人でわかクリエイターズ 代表理事 引地晶久
 一般社団法人でわかクリエイターズ 代表理事 藤井智代
 一般社団法人こどもエンターテインメント 代表理事 ミウラユウ

方法：Zoom によるオンラインミーティング

日時	内容
6 月 27 日 22 : 00 ~ 23 : 00	研修会テーマ話し合い。 視線入力が今まで中心となっていたため、今回はタブレット活用を視野に入りたい。あわせて前回好評であったゲームイベントも実施したい。 研修会はオンライン開催。講師・スタッフは配信会場に集合。
7 月 22 日 22 : 30 ~ 23 : 30	テーマ決定。「重度障害児の可能性をひろげるタブレットを中心とした ICT 機器活用 & 重度障害児の e スポーツ」 それに合わせて講師を選定・講師へ依頼・日程確認。
8 月 21 日 22 : 00 ~ 23 : 00	講師決定。(高松氏、福島氏、岩崎氏) 講師の予定により、11 月 7 日に研修会日決定。 講師のテーマ・概要を依頼。Web 用チラシの依頼。 スタッフの選定。配信会場の選定。
9 月 21 日 22 : 30 ~ 23 : 00	新型コロナ感染状況をみて講師・スタッフは集合せず、完全オンライン配信とすることに修正。 配信スタッフの決定。 Web 用チラシの修正。完成次第、各種 SNS で募集開始。
10 月 23 日 15 : 00 ~ 16 : 30	現在の参加人数等の確認。 当日スケジュール作成・確認。 リハーサル・スタッフミーティング日の調整。
10 月 30 日 22 : 00 ~ 23 : 30	現在の参加人数等の確認。質問等のまとめ。 当日スケジュール、スタッフ等の進行表確認。 リハーサルの進行確認。(リハーサル日は 11 月 4 日に決定)
11 月 5 日 14 : 00 ~ 15 : 00	現在の参加人数等の確認。締め切り時間の確認。 リハーサル後の進行表の調整。最終確認。 研修会後のアンケートの確認。

※細かい情報共有や連絡は、Messenger の連絡グループで適宜実施している。

(別紙 2)

○研修会講師ミーティング

参加者：高松崇氏（NPO 法人支援機器普及促進協会理事長）

岩崎允宣氏（島根大学総合理工学研究科伊藤史人研究室所属）

福島勇氏（国立高専機構熊本高等専門学校特命客員教授、できわかクリエイターズ理事）

引地晶久氏（一般社団法人できわかクリエイターズ代表理事）

方法：Zoom によるオンラインミーティング

日時	内容
8 月 28 日 19：00～20：00	講師顔合わせ。 研修会テーマの確認。 【高松氏・福島氏・引地氏】 各講師のテーマの話し合い。 講演のテーマ、概要の依頼。 【岩崎氏】 ゲームイベントの話し合い。 今回は EyeMoT 対戦エアホッケーを希望。 研修会に合わせてアップデートを依頼。
11 月 4 日 17：00～18：00	研修会のスケジュール確認。 研修会参加者の情報共有。 質問等の共有。 【高松氏・福島氏・引地氏】 スライドの音声等の確認。 【岩崎氏】 ゲームイベントの最終確認。 イベント参加者の情報共有。

※細かい情報共有や連絡は、Messenger の連絡グループで適宜実施している。

(別紙 2)

○研修会スタッフミーティング&研修会リハーサル

参加者：主催；引地晶久、藤井智代、ミウユウ

研修会スタッフ；原田美代子、松田大輔、川畑武義、川田健太郎 計 6 名

方法：Zoom によるオンラインミーティング

日時	内容
11 月 4 日 21：30～23：30	【スタッフミーティング】 研修会のスケジュール確認。 各スタッフの役割確認。 研修会参加者の情報共有。 【リハーサル】 講演、ゲームイベント時の Zoom 操作確認。 入室・退室、音声等の操作確認。 研修会の流れの確認。 →役割や方法の修正を適宜実施する。

※細かい情報共有や連絡は、Messenger の連絡グループで適宜実施している。